



素敵に 生きよう

Vol.60

「生きる 活きる つながりとともに」



わたしたちの「生きる」

今年、東日本大震災、台風12号、15号という未曾有の大災害が相次いで日本列島を襲い、多くの尊い命が失われました。

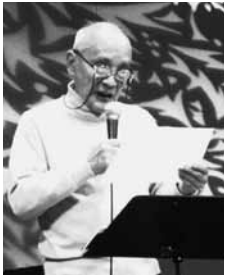
このようなことを背景に、第18回ひゅーまんフェスタの一環として、「人権を考える市民の集い」を企画する中で、今一度「生きる」意味を考え、家族や地域のつながりとともに、暮らし、「活きる」まちづくりについて考えることをテーマとしました。

そして、世界人権宣言の日本語訳や「生きる」という詩で広く知られている谷川俊太郎さんと演奏家の谷川賢作さん親子を迎え、「生きる」ピアノとともにin松原が11月30日に文化会館で開催されました。

冒頭で谷川俊太郎さんは、大阪府立生野高等学校の皆さんと市が協働で「今を生きること」「生きるとはなにか」をテーマに作成した冊子、親子で読むヒューマン絵本⑧「わたしたちの『生きる』」の紹介と朗読をされました。

言葉の波紋

「言葉の波紋」から始まる詩の朗読は、文字通り言葉の波紋が広がり、「ことばあそびうた」の詩や「生きる」の朗読につなが



内容についてのご意見・ご感想を
人権文化室(☎3337・3101)
へお寄せください。

ました。それは詩が単なる紙に書かれた言葉ではなく、声に乗って動く生き物という表現そのものでした。

ジャズピアノストである谷川賢作さんのピアノやアンデス25Fという楽器を用いた演奏は、あるときは優しく、またあるときは楽しく、「詩」の朗読と「楽器」の演奏のやり取りから「詩」と「音楽」が持つ力をあらためて感じる事ができ、それを象徴するように、会場からは小さなお子さんの笑い声や響いていたのが何よりも印象的でした。



人生は味わうもの

朗読と演奏のセッションからだけでなく、お二人の間で交わされる親子の会話のやり取りの中で、谷川賢作さんからの「人生に意味はあるのか」という問いかけに対し、谷川俊太郎さんがおっしゃった「人生は意味を求めるのではなく、味わうものだ」という言葉は、今回のテーマである「生きる」について深く考えさせられるものでした。

生きる喜び

参加者の皆さんからは、「日々の日常をいかに大切にし、味わって生きていくのかを考えていきたい」「これからも人生を味わっていききたい」といった感想とともに、「今の心を誰かに伝えられたらいいなと思います」「とても考えさせられる講演でした。子どもでも楽しめたので本当に良かったです」「心が穏やかになりました。思いやりや優しさ、生きる喜びは皆の感情に普通にあって、その普通の日常が愛しく思えるものだと思いました」といった感想が寄せられ、親子お二人の和やかな雰囲気や会場いっぱい参加者の皆さんにも伝わり、心温まる集いとなりました。



ニュース 情報 消費生活 子育て 健康 福祉 保険年金 安全 人権 環境 水水道 相談 その他 素敵に 生きよう 健康の ひろば 子育ての 各種相談 ウォーク 催し 講座 スポーツ 図書館 地域交流 みんなの広場 イベント ガイド